



奈良県農業研究開発センター ニュース

2025
6
vol.168

バンカー型製剤によるワタアブラムシの防除

～促成イチゴの生物的防除体系確立に向けて～

促成イチゴ栽培で問題になるワタアブラムシに対する新たな天敵製剤「バンカー型製剤」の防除効果を確認しました。なお、バンカーとは天敵を増殖する場であることを意味します。

1. 背景と目的

ワタアブラムシはイチゴ促成栽培で問題となる害虫の一つです。本種は吸汁による生育障害や萎縮のほか、排泄物により葉や果実を汚損する被害を引き起こします。本種は殺虫剤への抵抗性が発達しやすく、各種殺虫剤の効果の低下が報告されています。このことから、本種に対する殺虫剤代替技術の必要性が高くなっています。

現在、アブラムシ類の新たな天敵製剤「バンカー型製剤」(図1)の開発が進められています。本製剤はムギ類のポット苗に、天敵である2種類のアブラバチとその代替餌(害虫に代わる天敵の餌)であるトウモロコシアブラムシを定着させた資材です。天敵と餌アブラムシの付いたバンカー植物が一体となった、扱いやすい資材です。そこで、本資材の防除効果を確認するため、現地での実証試験を行いました。



図1 バンカー型製剤(左)とコレマンアブラバチ(右)

2. 研究成果の概要

五條市内のイチゴハウスでワタアブラムシに対する防除試験を行いました。バンカー型製剤

区と殺虫剤で防除する慣行区を設置し、10月～翌年5月までワタアブラムシの寄生率とアブラムシ類に登録のある殺虫剤の散布回数を調査しました。バンカー型製剤は11月、翌年2月および4月の3回設置しました。

その結果、バンカー型製剤区では慣行区に比べて、殺虫剤の散布回数が3回少なく、ワタアブラムシの寄生率も低く推移しました(図2)。また、バンカー型製剤区では天敵アブラバチ類の発生も確認されました。

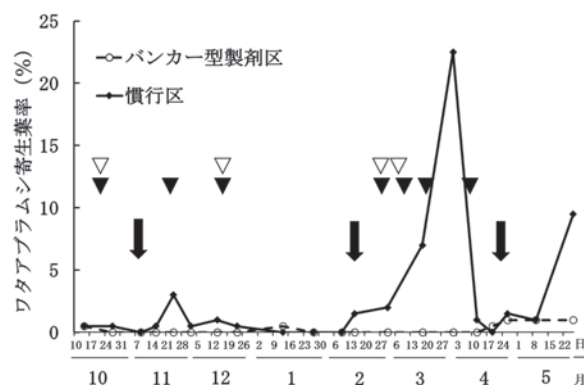


図2 バンカー型製剤区と慣行区におけるワタアブラムシ寄生率の推移

図中の▽はバンカー型製剤区、▼は慣行区におけるアブラムシ類に登録のある殺虫剤散布、↓はバンカー型製剤の設置を示す

3. 実用化に向けた対応

バンカー型製剤は市販に向けて準備中です。販売開始後、既存の技術マニュアル「促成イチゴ栽培における難防除害虫防除マニュアル」を改訂し、現地への普及を図ります。

(環境科 藤森颯太)